

平成29年 玉野市教育委員会 会議録

I 期 日： 平成29年7月25日（火） 於：第1委員会室

II 開会時間： 10時30分

閉会時間： 12時00分

III 出席委員： 教育長 石川 雅史 教育長職務代理者 近藤 寿子
委 員 野田 洋二 委 員 大川 佳郎

IV 欠席委員： 委 員 川口 雅之

V 出席者氏名： 学校教育課長 住田 義広 学校教育課主幹 栗本 明德
学校教育課主査 高木 文彦

(書記) 山内 祐樹

VI 会議内容：

1. 開 会

2. 経過報告

(事務局) 要項に沿って説明

3. 答申

(選定委員会会長) 答申を行う。

(委 員) 一般からの意見書についてどのような意見が出たのか。

(選定委員会会長) 選定委員会でも一般からの意見書の内容を確認した。ある教科書に現役の政治家が掲載されているという意見書もあったが、選定委員会ではあくまでも教科書の形式等のスタイルや内容を総合的に検討し、議論したことから、一部のイラスト・写真等についてのみで判断はせず、総合的

な観点から評価をした。特に、考えを深化させる構成の工夫が見られたり、問題解決学習を行うのに適している等の観点から東京書籍は評価が高かった。

(委員) いじめについての教材を各社比較してみたが、いじめに関する内容について、選定委員会ではどのような話が出たか。

(選定委員会会長) いじめなどの現代的な課題についても一通り確認したが、内容面での目立った優劣はなかった。

(教育長) 道徳の教科書でノートの有無や問いの細分化について特徴があるが、東京書籍はノートがなく、問いも自由度のあるものである。この観点から、各社の教科書についてどのような議論があったか。

(選定委員会会長) まず、そのことについての議論になった。8社のうち、2社がノート、1社に別冊が付いていた。若い教員はノートがあった方が授業をしやすいのではないかという意見もあったが、ノートを使わなければいけないとなると、授業の構成がせまくなるのではないかという意見も出た。これまでも道徳の授業は、ワークシートを作るなど、工夫をしながら進めている。発問や記入欄等、ノートの活用には一長一短あるが、研究委員会同様、ノートの有無だけでは判断はできないとの結論に至った。

(委員) 教科書会社によっては掲載されている教材の数にばらつきがあるかどうか。

(選定委員会会長) 1つの教材を1時間で扱うので基本的には年間35時間に合わせて35項目で作られている教科書が多い。

4. 協議

(事務局) 選定委員会の具体的な協議内容について説明

(教育長) まず、各委員の教科書を見た印象を教えてください。

(委員) ノートや補助的なものがあるかどうか、それが現場の教員にとって使いやすいものなのかというところを考えた。ノートがあることによってスムーズに進めることはできるかもしれないが、プロ意識を持ち、教員の資質を上げるためには、いかに読み込んで授業を作っていくかが大切である。意見書を見ると光村図書という意見があったが、昔ながらのスタンダードな雰囲気で見やすかった。しかし、見やすいのと教えやすいのはまた違う。教える側に立ったときに、どうなのかが大切。

(教育長) 選定委員会でも議論になったのがノートや発問についてである。それぞれ特徴があり、問いが細分化されていると問いに従って順番に授業を進

めやすいかもしれないが、全てのクラスで同じ問いが良いというわけではなく、児童やクラスの実態に合わせた発問ができるような教科書にすることも必要な観点である。選定委員からは、各教室で柔軟に対応ができるように、発問はすっきりしていた方がいいという意見が多かったようだがどう思うか。

(委員) ノートを見てみると、授業がスムーズに進むのであればノートがあっても悪くないのではないかと。子どもたちから見れば、枠がある方が答えやすいかもしれない。

(委員) 細かに発問があると答えが導かれやすい。ただ、全て導かれていくのではなく、児童の状況に合った対応など教員のレベルを上げるためにも何をどのように教えていくのかを考えながら授業ができる教科書が良いのではないかと。

(委員) 教科書によっては、この問いはどうかと思うものもあった。問いが細分化されていると授業がしにくいのではないかと。

(教育長) 委員からの意見をまとめると、問いについては児童の実態、クラスの状況に応じて配慮していくことができるものの方が良いという意見が多いようである。確かに教員を育てるという面でも東京書籍のような問いが細かく設定されていないスタイルのものが良いのかもしれない。ここからは、各教科書を個別に確認しながら、具体的に比較検討していきたい。

まず、問いが細分化されている教育出版、光村図書から見ていきたい。選定委員会での議論を見てみると、光村図書についてはさらに文章が長く、読むこと自体に時間がかかってしまい、議論する時間が少なくなってしまうという議論もあったようだ。具体的に文章が長いと感じられる学年はどの学年か。

(事務局) 選定委員会では特に低学年を比較すると文章が長すぎるのではないかと意見が出ていた。

(委員) 教育出版も光村図書も問いが細分化されている。細かい発問によって、授業を進める上で、発問の自由度が低くなってしまい、授業を進めづらい部分もあるのではないかと。

(委員) 問いが細分化されていると、子どもたちが教科書のとおり導かれてしまう可能性がある。

(委員) 問いが細分化されておらず、また「考え議論する道徳」の観点から子供たちが考え議論する時間を確保できる点で東京書籍が良い。

(委員) 教科書によっては活字の大きさや見やすさに差があり、そうした観点から全体的に見ても東京書籍が良いと思う。学研の絵のインパクトが強いとの意見があったが、確かにそう思う。

(教 育 長) 学研の話題が出たが、学研についてはどうか。

(委 員) 絵のインパクトでひきつける魅力があるのも大切だと思う。

(教 育 長) 東京書籍と学研は、問いに自由度があるという点でスタイルは似ているが、低学年の問いの仕方に違いが見られる。学研は全学年共通して、最後に問いが示されている。東京書籍は低学年のみ最初に問いが設定され、中学年以降は最後に問いが示されている。その点についてはどうか。

(委 員) 低学年では最初に問いがあり、自分の経験や考えを持った上で本文を読んで考えを深めていくほうが授業はやりやすいかもしれない。

(委 員) 2年生と3年生を比べるとがらっと変わる。発達段階に合わせた工夫がされている。

(委 員) いいと思う。低学年は教科書を開いたときにすぐに絵や文章に目がいつてしまうので、先に考えを持たせるのはよい。

(教 育 長) 意見をまとめると、特に低学年では、先に児童が考えを持ってから読み物に入る方が授業の展開の可能性が広がるということで、東京書籍の方がより良いとの御意見だった。

次にノートがある教科書を見ていきたいが、日本文教出版はどうか。

(委 員) 6年生を見るといい教科書だと思った。選定委員会ではどんな話になったのか。

(事 務 局) 選定委員会の中でも内容について肯定的な意見が出ていた。しかし、ノートに細かな発問が全て書かれてしまっているため、授業を構成していく上で工夫が必要であるという意見であった。内容的にとってもいい教科書であるが、問いの立て方や授業の進め方について論点になっていた。

(委 員) 4年生を見ると、ノートだけでなく、教科書にも記入欄がある。

(教 育 長) 基本的にはこの教科書は、教科書の問いとノートの問いに対応関係があり、また友達の考えも書くことができるのが特徴だと考えられる。

(委 員) ノートがない方が児童の実態に合わせて指導ができるのではないか。

(教 育 長) 廣済堂あかつきについてはどうか。

(委 員) 教科書とノートがリンクしていないと使いにくいのではないか。ノートの一つの見開きのページで教科書の教材の項目が、2つ又は3つ設定(連番ではない)されている。3つ教材があるのに、記入欄が2つしかないというところもある。授業の進め方、ノートの使い方が難しいのではないか。

(教 育 長) 読み物と問い(活動)が2冊に分かれている学校図書についてはどうか。

(委 員) 2冊目はノートではなく、問いが別になっているものである。教科書が2冊あると使いにくいのではないか。

(委 員) 「活動」はテーマごとに分かれているので、順番がばらばらになっている。

(委 員) ノートではないので、この2冊とさらにノート、ワークシートが必要に

なってくるのでややこしいのではないか。

(教 育 長) 光文書院についてはどうか。

(委 員) 教科書自体、押しつけがましくない表現でいいと思う。しかし、脚注に問いがあるので、読んでいるとそこに目がいってしまう。脚注がなくてもよかったのではないか。

(委 員) いじめの教材の進め方が難しいと感じた。

(委 員) 下に問いがあるので、その分だけ無駄なスペースが多く、サイズが大きくなっているのではないか。

(委 員) 授業を進めていく中で、途中で問いに目がいってしまい、段落ごとに問いの答えを見つけようとしてしまうことも考えられる。

(教 育 長) 以上、全ての教科書を見てきたが、「考え議論する道徳」という観点からは、児童の実態やクラスの状況に合わせながら、柔軟に授業をしていくことが必要であると考えられ、それがひいては教員の指導力の向上にもつながるのではないかと、ということだった。その中で設問やノートについても、問いが細分化されていない方が良いという意見であった。また、低学年では各教材の前に何について考える時間かを示して、考え議論する幅を持たせていることも、発達段階に応じた構成の工夫として好意的に受け止められていた。さらに、文字や挿絵のバランスもとれているとの意見もあった。こうした理由から、教育委員会としても東京書籍を採択することでよいか？

(委 員) 賛成する。

(教 育 長) それでは、東京書籍を採択する。なお、細分化された問いやノートがない教科書であるが、「考え、議論する道徳」の観点から、書いたり話したりする活動を積極的に取り入れていくことは重要であり、授業や児童の復習の中でそのような活動を積極的に取り入れていただきたい。

(教 育 長) 以上で教科書採択を終了する。